

青年農業者組織の活性化

～ 他管内・北海道アグリネットワーク役員との交流による活動活性化 ～

[広域・担い手]

1 背景

- 留萌管内青年農業者会議が「ファーマーズトーク inRUMOI」に改名、新しい体制になり6年が経過した。
- 6年が経過し、各組織での活動のマンネリ化や活動への負担感、モチベーションの低下が一部に見られた。
- ここ数年コロナ禍もあり、他地区の青年農業者グループと交流の機会が減り、プロジェクトや活動状況等情報が入らず学習する機会が少ない状況にあった。

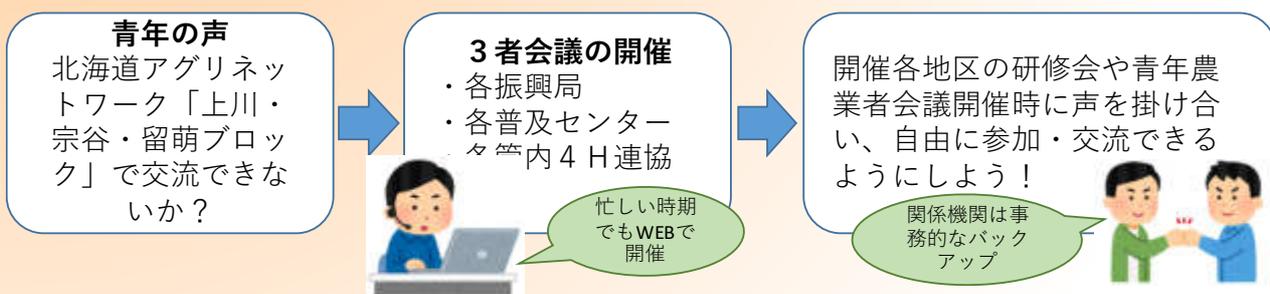


2 取り組み

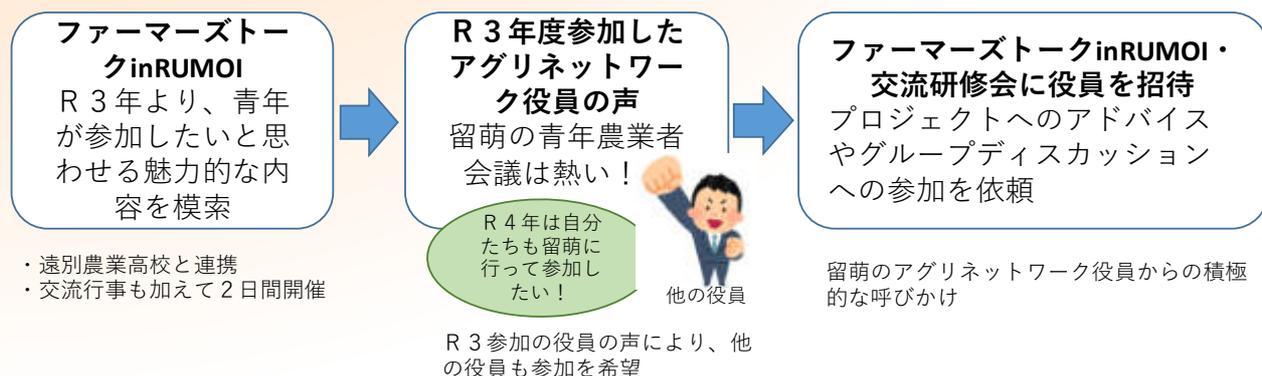
★取り組んだ内容★

4 Hクラブ連絡協議会の行事に、他管内青年グループや北海道アグリネットワーク役員に出席を呼びかけ、交流を図った。

(1) 他管内青年グループとの交流



(2) 北海道アグリネットワーク役員との交流



3 成果

(1) 他管内青年グループとの交流

成果① 夏期交流研修会で経営・栽培技術向上

所得補完作物を学をテーマに夏期交流会を開催、上川管内より5名参加。他管内の青年農業者と交流することで、留萌管内とは違う農業経営のあり方や技術などを学ぶことができ、青年の経営管理能力及び技術向上に繋がった。



★ 得られた効果 ★

- ・経営管理能力の向上
- ・栽培技術向上
- ・交友関係のひろがりによる情報収集力向上

成果② 交流記念講演でプロジェクトへの意欲向上

ファーマーズトークで、交流記念発表として令和3年度全国青年農業者会議にて農林水産大臣賞を受賞した大雪さんろく倶楽部のプロジェクト発表を聞かせてもらう。

プロジェクトにおける課題の見つけ方、取り組み方、まとめや発表方法など活動の参考になり、プロジェクト活動に対する意欲が向上、全道青年農業者会議での入賞に繋がった。



★ 得られた効果 ★

- ・プロジェクト活動の意欲向上
- ・プレゼン能力(まとめ方、発表の仕方等)の向上
- ・全国青年農業者会議への出場(1課題発表・7名参加)

(2) 北海道アグリネットワーク役員との交流

成果③ ファーマーズトークで個々のスキルアップ

ファーマーズトーク時のグループワークに北海道アグリネットワークの役員にも参加してもらったことで、まとめる場面での進め方やリーダーシップの取り方を学ぶことができ、青年個々の能力向上や4H活動の活性化に繋がった。



★ 得られた効果 ★

- ・青年個々の能力(リーダーシップ、グループワークでのまとめ方等)向上

4 今後の対応

(1) 4H連協の活動の支援継続

(2) 4Hクラブを含めた若手農業者の育成支援体制づくりに向けた関係機関との連携

リスク管理を取り入れた持続可能な農業経営の推進 ～ GAPへ取り組みの啓発・支援 ～

[広域：情報・クリーン・有機]

1 背景

- 留萌管内において、GAP認証取得への関心は低く、積極的な取り組みが行われていない状況である。
- しかし、遠別農業高校では、地域や関係機関・企業等との連携を図りながら、高品質な農作物や加工品の生産を実践することを学習指導の目標としている。また、持続可能な農業（安心・安全）を考える上で、GAPに取り組むことは重要であった。
- また、労働安全や労務管理に関心を持つ農業者はいるが、実践する手法は確立されておらず、労働事故や労務問題が起こる可能性がある。そこで、地域のモデル事例として天塩町のTMRセンター(更岸フィードセンター)に対し、GAP手法を用いた「労働安全・労務管理」の講習会を開催した。

2 取り組み

(1) 遠別農業高校への支援（図1）

- ・ これまで遠別農業高校のGAP認証取得に対し、継続して支援を行ってきた。
- ・ R4年度は、GAP維持審査へ向けての支援および審査時の指摘事項への対応について助言を行った。

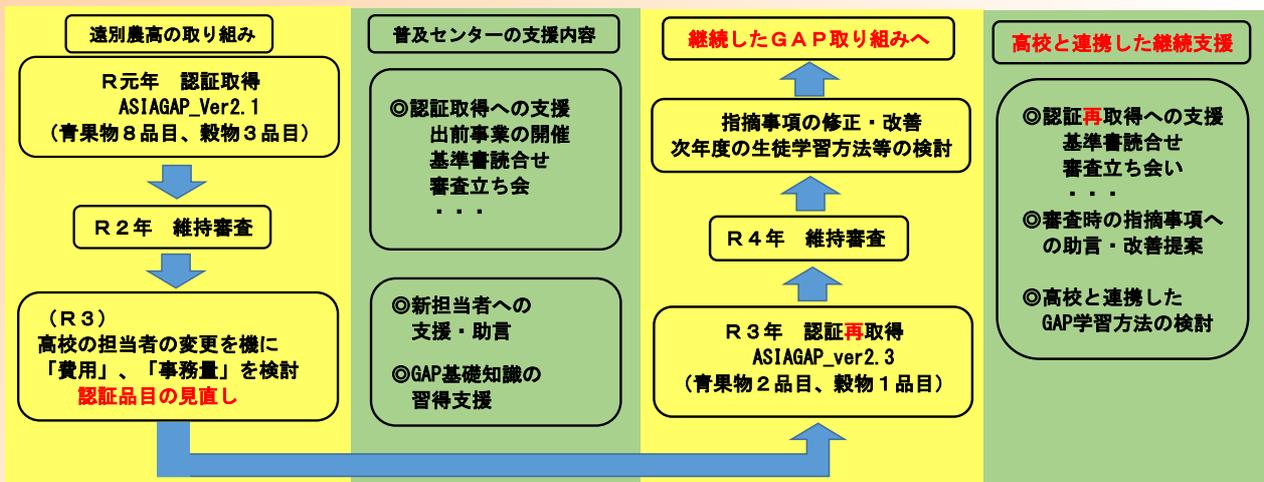


図1 遠別農高のGAP取り組み

(2) 地域での啓発活動（GAPモデル事例）の取り組み

GAP手法を取り入れた講習会を開催し、「労働安全」や「労務管理」への意識向上を図った。



普及センターから労働安全について

大きな機械での作業やみんなで作業したり、今までとは違うなあ！

次に作業するのはどこだっけ？



JAから労災保険について

けがや事故った時、労災や保険はきちんと出るのかなあ？

作業ごとに必要な免許や資格が違うのか～！



3 成果

(1) 遠別農業高校への支援



3年生みんなで審査に対応

●GAPへ関心度も高く、
応答もしっかり行われた！



じゃがいもの袋詰め作業

●異物の混入や重さに注意
しながらの作業



今年も安全・安心なお米を収穫

●道の駅でも定番！
遠農高校のもち米

(2) 地域での啓発活動（GAPモデル事例）の取り組み

普及センターとJAが連携して講習会を開催した結果、労働安全や労務管理へ「意識向上」、につながった！



みんなで作業するので、
情報共有することやルールづくりが必要だな！



きちんと作業免許等を持っていないと、
労災や保険が下りないだな。
機械作業する人には、
免許を取ってもらおう！

4 今後の対応

(1) 遠別農業高校への支援

毎年、対象生徒が変わるため、継続した学習カリキュラムが必要。また、認証維持のための経費や事務量が多いため、継続できる仕組みづくりに遠別農高と普及センターが連携した取り組みが必要であり、今後も支援する。

(2) 地域での啓発活動（GAPモデル事例）の取り組み

今年度の研修会は、意識向上を目的としている。継続して働きかけ、GAP手法を用いた経営・管理ができるように支援を行う。

農商工連携による「最北のさつまいも」

～色素抽出用さつまいもの安定生産に向けて～ [広域・高付加価値化]

1 背景

- 平成29年度より遠別町の色素加工メーカーである鹿遠産業株式会社と地元農業法人緑進との「色素抽出用紫さつまいも」の栽培を始めた。

寒冷地での栽培で生産が不安定なことから、試験研究機関等と連携し「安定生産に向けた技術確立」に取り組んだ。

- 苗は本州からの購入苗が大半を占めているが、近年、病害の発生により本州からの苗の供給が難しくなった。そこで、適期植え付けや苗供給に係るリスク分散のため、自家採苗の取組を開始した。

北海道におけるさつまいも栽培の特徴

- ① 害虫が少なく、防除をほとんど必要としない
- ② 乾物率・でん粉含量が低い
- ③ 糖含量が高く、食感は粘質になりやすい
- ④ アントシアニン、ポリフェノール含量が高い

2 取り組み

～採苗技術の向上支援を行った～

これまでの技術の再確認と見直し



(1) 種いもの萌芽前の栽培管理

- ◇種いもの萌芽前の温度管理
- ◇かん水のタイミング・量

苗床の温度をあげて(30℃目安)
過湿にならないように管理

視察研修にて、関係機関と共に種いもの栽培管理技術を学ぶ場づくりを支援 ← 基本技術を確認!!

- ◇試験研究機関：北海道におけるさつまいも栽培の特徴や育種品種について
- ◇現地事例調査：種いもの伏せこみ時のポイント
→萌芽前の温度管理 (30℃以上保持)
萌芽するまで「かん水」しない

(2) 機械植えに適した苗の検討

農業法人の植え付け担当者より、聞き取りを行い、機械植えに適した苗の目安を検討した。

(3) 種いものキュアリングおよび保管庫の整備

収穫後のすみやかなキュアリング作業の実施の必要性和保管庫の適正な温度・湿度について情報提供を行った。



色素抽出会社での採苗作業
(令和4年6月16日)



十勝管内視察研修
(令和4年7月6～7日)

栽培技術の情報提供
や今後の課題を共有



関係機関との意見交換会
(令和4年10月19日)

3 成 果

(1) 採苗技術の改善により「アケムラサキ」5,749本、 「むらさきほまれ」110本が自家採苗できた！



令和3年は種いもは腐敗により全滅状態
自家採苗は、ほとんどできなかった



4月上旬に伏せこみ、
5月上旬から順次、萌芽



5月26日～6月28日までの
約1ヶ月にわたって採苗

萌芽までの栽培管理のポイント
がわかったよ。
特に温度が重要なんだ！



(2) 機械植えに適した苗の目安がわかった！

【採苗の目安】
長さ：25～30cm
節数：6～7節



長さや節数も大事だ
けど、真っ直ぐな苗だと、
台に並べやすく、
作業効率が良いよ



機械移植には
真っ直ぐな苗が
適している。

機械移植には
不向き。
補植用にはOK。

(3) 種いもの保管庫の整備ができた！



種いも貯蔵庫



本年は収穫後、すみやかにキュアリング
を実施し、温度：13℃程度、湿度：90～
95%を保持できる種いも保管庫を整備。

4 今後の対応

紫さつまいもの安定生産のためには、病害対策を含めた健全な種苗確保のための種いも管理について支援が必要となる。今後は、種いも管理技術の確立に取り組む。

